

1. 評価結果概要表

作成日

平成19年 6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4075300204		
法人名	医療法人 社団 親和会		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野4 2 0 2 - 7 〒820-1103 (電話) 09496-2-8882		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年6月1日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 6月 1日			
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	17人 常勤	12人 非常勤	5人	常勤換算 15.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての～	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合 償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,380円程度	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

登録人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	10名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名				
要支援1	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.5歳	最低	77歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 社団 親和会 共立病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院が、医療と介護を手がけていく中でグループホームの必要性を認識して開設したホームである。前庭には、良く手入れの行き届いた季節の花々が咲き誇り、リビングは広くゆったりとした解放的な空間の中で、入居者は思い思いに過ごしていた。管理者と職員は、尊厳ある生活を守るため、入居者一人ひとりのペースを尊重し、明るく穏やかな姿勢で接している。入居者の外出傾向を把握し、入居者の自宅の草取りに出かけたり、2時間近くかけての散歩に出かけたり、また温泉に出かけるなど、入居者一人ひとりに寄り添った柔軟な対応が見受けられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果は、いつでも閲覧できる状態であり、運営推進会議での説明や行政へ提出を行うなど、公表へ向けて積極的に取組んでいる。前回の外部評価を受けて、記録の書き方を工夫するなどの改善が顕著に見られた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取組み、管理者と計画作成担当者でまとめるなど、全職員が評価に前向きに取り組んでいる。この過程で、前回の外部評価内容と今回の外部評価内容の違いを認識するなど、気づきを生む結果につながっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域住民、行政担当者、民生委員、家族の参加によって運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に外部評価内容やホーム運営等について報告し、さまざまな意見や情報を得ている。行政窓口や公民館に「ホームたより」を配布したり、地域サロンや地域文化祭へ参加するなどの取組みへつながっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の来訪時の声かけやその都度の報告、運営推進会議を通じての働きかけ、担当職員と家族との関わりなどさまざまな場面を利用して家族とのコミュニケーションを図るように努めている。介護記録等の開示や説明などを通じて家族の意見や思い等を積極的に把握・表出してもらうためのさらなる努力をしてほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の人々から食器をもらったり、地域文化祭や地域サロンへ参加したり、日々の散歩時の挨拶や近隣の人々が散歩途中で立ち寄りたり、また地域のボランティアを利用するなど、徐々にではあるが地域との交流が図られている。行政間の隣接地区にあり、隣接行政への働きかけの困難さは理解できるものの、生活圏として考慮し、隣接行政や地域への働きかけを根気強く行ってほしい。

2 . 調 査 報 告 (詳 細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時からの理念であるが、地域との 関係性を意識した理念の内容となっている。		地域密着型サービスへ移行したことを受け て、地域密着型サービスの意義の理解を深め、 理念の再構築に職員と一緒に取り組んでほし い。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のカンファレンスの際に理念について 話し合ったり、日常のケアの場面を通じて気付 いたことを職員間で話し合うなど、理念の浸透 を図る工夫がある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域の方から食器をもらったり、地域文化祭 や地域サロンへ参加したり、日々の散歩時の挨拶 や近隣の方が散歩途中で立ち寄ったり、地域 のボランティアを利用するなど、徐々にではあ るが地域との交流が図られている。		行政間の隣接地区にあり、隣接行政への働き かけの困難さは理解できるものの、生活圏とし て考慮し、隣接行政や地域への働きかけを根気 強く行ってほしい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	職員全員で自己評価を行い、検討する取組み がある。前回の外部評価結果は、いつでも閲覧 できる状態であり、運営推進会議での説明や行 政への提出を行うなど、公表へ積極的に取り組 んでいる。前回の外部評価を受けて、記録の書き 方を工夫するなどの改善が顕著にみられた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民、行政担当者、民生委員、家族の参加によって運営推進会議が開催されている。運営推進会議で地域とのかかわりを提案し、地域サロンや地域文化祭へ参加するなどの取組みが見られる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政担当者の参加があり、運営推進会議を通じて連携が図られている。地域密着型へと移行した中で、運営面や制度などについてその都度相談を行うなどの、かかわりが見られる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を利用した実例はないものの、ひと家族ずつに制度に関するパンフレットを配布し、説明を行うなどの情報提供が行われている。職員の制度に対する理解を図る取組みはこれからである。		勉強会等を通じて職員への制度についての理解の促進を図ってほしい。また、家族への積極的、かつ、繰返しの制度の説明を行ってほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時の声かけやその都度の報告がある。2か月に1回のホームたよりの発行を通じて、認知症の理解を促したり、外出や外食時の様子を知らせたり、ホーム行事等の案内や報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時の説明や運営推進会議を通じての働きかけ、担当職員と家族とのかかわりなどを通じて、家族等の意見や希望の表出に努めている。		介護記録等の開示と説明などを通じて、家族等の意見や思い等を積極的に把握・表出してもらうためのさらなる努力をしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間では行われているが、職員レベルでの離職は見られない。新しい職員が入るときは、馴染みの職員が多くかわるようにするなどの工夫がみられる。		
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用においては一切制限はしていない。職員の意欲や姿勢からホーム発足時の非常勤や契約職員だった職員を正職員としたり、上の資格取得を目指す職員に、さまざまな情報を提供したり、勤務ローテーションを調整するなどの取組みがある。職員レベルでの離職が見られないことから、職員一人ひとりを尊重し、働きやすい職場づくりへの取組みがうかがえる。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政で行われる人権学習会への参加を通じて、職員の人権意識を喚起する取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を掲示して参加を募ったり、職員の経験や能力を考慮した上での外部研修への参加がある。また、必要な研修については、交代で参加できるような配慮がある。ただし、内部の勉強会への計画的な取組みはこれからである。		カンファレンスの機会を利用した計画的な勉強会への取組みと充実を図ってほしい。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームや有料老人ホームの見学、情報交換等を行うなど、質の向上への取組みがある。他事業所との交流を通じて記録の書き方や食事の出し方、セッティングの仕方などについて職員から意見が出るなど、具体化するための姿勢がうかがえる。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者と計画作成担当者が自宅を訪問し、顔なじみの関係をつくるほか、ホーム見学を兼ねた数日間の昼間だけの利用を通じて馴染んでもらうなどの工夫がみられる。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の表現方法や作法、梅酒の作り方、菜園造りの指導を受けるなど、日常の関わりを通じて入居者から学ぼうとする取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中から把握した入居者一人ひとりの思いや希望等をセンター方式の様式に記入するなど、職員間での情報の共有への取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月毎に職員全員で評価を行う際に、職員の意見や気づきを出し合っている。介護計画の作成時に家族と協議し、家族の意見や希望の把握に努め、介護計画へ反映させるなどの取組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月に1回は、介護計画の内容についての見直しが行われている。毎月のカンファレンスにおいて入居者の現状に即した協議が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の人々の相談に応じたり、入居者の自宅の草取りや温泉に出かけるなど、入居者一人ひとりの希望に応じ、柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医による2週間に1回の往診がある。今までのかかりつけ医への診察は、基本的には家族対応であるが、家族対応が困難な場合は、ホーム側で対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	新規に入居される利用者に対しては、契約時に看取りに関する指針を示して説明を行っている。以前からの入居者に対しては、状況によって家族等に話し、意向を確認するなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者の様子を良く観察しており、 入居者にさりげなく近づき、耳元で声かけした り、手に持った尿取りパットを見えないように 隠したり、視線を合わせて笑顔で傾聴するな ど、プライバシーに配慮した対応が見受けられ た。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	個々の入居者の生活リズムに配慮して、食事 にかかる時間や取り方、居室やリビングでの過 ごし方など、入居者のペースに寄り添った対応 が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は入居者と一緒に食事を取り、食器の位 置を取りやすいように変えたり、優しく声かけ するなど、食事が楽しみとなるような工夫があ る。ランチョンマットの準備や下膳など、入居 者のできることへの取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から18時までなら毎日入浴が可能であ る。朝風呂の希望があれば対応するなど、入居 者の希望に沿った対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	浴槽の水入れ、カレンダーめくり、お茶入れ、 洗濯物の取入れ、菜園での収穫など、入居者の 持つ力を活かすような取り組みがある。		ADL(日常生活動作)的に難しいと諦めずに、 入居者一人ひとりのできることの中で、味見等 の小さなものと思えるものでも役割として捉 えて支援していくことが、入居者の自信につな がると考えられることから、積極的に取組んで ほしい。
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩、車椅子や独歩で自宅の様子を見 に行ったり、その時々々の希望に応じたドライブ など、入居者一人ひとりの希望に沿っての柔軟 な支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	各ユニット及び建物の出入口は開錠されて いる。入居者の状態のきめ細かな把握によっ て外出傾向を把握し、後ろからついて行っ たり、一緒に出かけるなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署員の立会いによる避難訓練が年2回 行われており、3か月毎にはホームの自主的な 訓練を通じて、避難経路や避難場所について の確認や専門家からのアドバイスを受けてい る。夜勤時等において緊急時は隣接する併設 施設の応援を得られる体制である。		ホームの立地条件や隣接行政等の問題があ り、困難な面はあると思われるものの、災害等 の緊急時に地域の協力が得られような体制作 りへ取組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	契約業者の作成したメニューと食材の配達 が行われており、食事摂取のチェックでカロ リー等の栄養バランスの把握はできている。 必要な入居者に対して水分摂取量チェックを 行うとともに、居室に薬缶やポットを置くな ど、水分不足にならないための取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの前庭には、季節の花が咲きそるい、 ホームの玄関や各ユニット内にも季節の生花 が飾られ、季節を感じる工夫が見られた。リビ ングの天井は高く開放的な空間の中で入居者 がゆっくりと個々のペースで過ごしている風 景がみられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、趣味の作品や思い出の写真、馴染 みのテレビやぬいぐるみなどが持ち込まれて おり、居心地のよい居室作りへの配慮がみられ た。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号